

武庫川流域委員会委員長 松本 誠様

040725 委員 田村博美

いつもたいへんな委員会運営ご苦労様です。

本委員会の中では時間的制約もあり、各委員の発言時間にも配慮が必要と思いますので、十分な説明と質疑ができませんので文章にて補足を行います。

一つは、本委員会の中の私の資料に対する補足説明と河川管理者の提案に対する質疑および私の意見です。

二つは、第 4 回運営委員会に出席できませんので、文章にて私の提案および質疑をいたします。よろしくお取り計らい及びご協議ください。

1. 第 5 回流域委員会について

河川管理者から参考資料として提出説明された、資料 3 - 1 , 3 - 2 は、河川区域を対象とした基本方針及び整備計画を目途としたものであり、また調査の対象区域や調査精度が不明である。調査項目も詳細が良くわからないし、極端に言えば今まで河川管理者が提出、説明された資料の域を出ないのではないかと危惧される。とくに資料 3 - 3 と見比べれば、「4」と「項目 A」の 2 回で武庫川の現状と課題が検討され、以降「項目 B」以下に移っていくと想定されます。

このような調査と現状認識で今回の委員会が進められるとすれば甚だ遺憾であるし、私たち委員の今回の委員会にける熱意と努力が報われない可能性があると考えます。

前回私が提案した調査作業フローに照らし合わせて、河川管理者が最低限定めるべき内容がどのように該当するのかわからないのか提示して頂きたいと思います。

その上で、今回の委員会ですべてどこまでどの精度で補足及び追加調査、計画、提案を行うのか協議していけばよいと考えます。

地域やまちの特性及び自然的、歴史的、人文的脈絡等を活かし、継承した魅力的且つ個性的な武庫川の川づくりを計画するためには、河川と地域との関係で調査、分析を進める必要があることはこれまでの議論で委員各位の総意と思われれます。したがって、どのような調査項目をどの範囲で、どの精度で行うか十分留意することが必要と考えます。当然、これまでの県、関係市の調査結果や諸団体の調査結果を十二分に活用することも重要と考えます。

これら必要項目に対する既存調査データの現状について、調査年度、範囲、精度、調査主体等について早急に整理して頂き、提出頂きたいと思います。その上で上記補足、追加調査を行うことにすればよいのではないかと思います。

本委員会は、次回第 6 回から治水の検討に入るとしてしています。この決定は否定しませんが、同時並行で私の提案した C - 1 地域条件、その他利水、環境に関するもっと詳細且つ広範囲にわたる調査と分析が必要と考えます。せっかく各分野の専門家と地域情報に詳しい委員が参加しているので、本委員会の議論と平行して、分科会がワーキンググループを作って補足調査や分析を行うことを提案します。

委員が調査そのものを実施することは困難でしょうが、データ収集のための意見や情報を持ち寄り協働することは可能と考えます。また、地域をもっとよく知るため武庫川とその周辺地域の観察調査を独自に行うことも提案します。

また、地域や自然環境と調和した河川計画や整備計画の先進事例を調査することも重要であると思います。

2. 第4回運営委員会について

第5回流域委員会に関する上記意見についてどのように取り扱われるのかご検討ください。

第5回流域委員会参考資料p.56の意見と要望に対する取り扱いについて教えてください。前記の内容と一部重複もあります。

第5回流域委員会で出された傍聴者（リバーサイド住宅の問題について）

本件は、流域委員会の決定を待つというような問題でなく、私のフローA-3の で記述している、喫緊の課題への対応と考えます。当事者の方々と県、市が直接具体策を検討すべき課題であると認識します。この件についても運営委員会でどのように取り扱うかご検討ください。

以上よろしくご検討をお願い申し上げます。